

【佐賀県太良町】

校務DX計画

【太良町の現状】

太良町では、国のGIGAスクール構想に基づき、令和2年度、3年度に町内の小中学校の児童生徒に1人1台端末（タブレット端末）を導入し、通信ネットワークの構築により、積極的な活用を進めてきた。

教職員においてもICTの活用を進めているが、学校現場においては紙の資料や従来型の業務が多くみられる。今後の校務の円滑化・効率化の観点から、さらなる校務DXを推進していく必要がある。

【課題】

校務DX化チェックリストによる自己点検の結果等を踏まえると、生徒・教職員ともに学習用端末の活用は進んでいるが、クラウドサービス等の利活用がなされていない状況である。特に児童生徒の欠席・遅刻・早退連絡についてクラウドサービスを利用し受付・管理・集計を行っている学校はない。その背景には、なりすましやさぼり防止のため、電話での受付がいいとの声もある。

しかし、保護者から電話による欠席・遅刻の報告を受けた後、校務システムへの入力、管理者への報告を行っている状況であるため、教職員への大きな負担となっている。

また、タブレット端末を月1回以上持ち帰っている児童生徒が学校単位で3%～34%と非常に少ない。家庭でのネットワーク環境の把握も必要である。

FAXの使用については、一部使用している学校もある。また、押印・署名が必要な提出書類についても、慣行的に行われているものも多く、見直しが必要である。

【今後の取組方針】

以上のような現状と課題及び校務DX化チェックリストによる自己点検の結果等を踏まえ、下記の取組方針を掲げ、「円滑化・効率化された校務」の実現により、教職員にとって働きやすい環境を提供できるとともに、児童生徒と向き合う時間や教職員自身の学びの時間を捻出することが可能となる。

（1）クラウドサービス等の利活用

現在、校務ネットワークについては、オンプレミス（各学校の備え付けのサーバー）で運用している。今後はクラウド型校務支援システムの導入を検討し、学籍管理、出席管理、成績管理、通知表の作成、指導要録の作成などを関連づけ、業務負担軽減を進めていく。

また、クラウド型校務支援アプリ等を活用し、保護者からの連絡をアプリで受け付け、そのアプリ上で確認できる仕組みを導入することで、教職員の業務負担軽減を図る。

（2）FAX利用・押印の見直し

「GIGAスクール構想のもとでの校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果によると、FAXを一部利用しているのは役場への連絡、民間事業者への連絡が主なものであるため、FAXの方が効率的となる場合や災害やネットワーク等の不具合時を除き、原則廃止していくよう働きかける。

押印については廃止できるもの、できないもの又は代替できるものを区分していく。

また、制度上必要な場合は関係機関と協議し見直しを図っていく。

(3) ペーパーレス化の推進

職員会議等でのペーパーレス化は4校中2校は完全ペーパーレス化、1校については一部ペーパーレス化、1校については全く行っていない状況である。後者の2校について、職員会議等で用いる資料等はクラウド上で共有するよう推奨し、印刷等の負担軽減及びペーパーレス化を推進していく。また、保護者への情報提供についてもクラウドサービス等の利活用により、ペーパーレス化を進めていく。